

みちのく環境だより

環境省東北地方環境事務所 <http://tohoku.env.go.jp>



東北地域における環境問題の取組と東北地方環境事務所の活動内容を紹介しています。

年 頭 所 感



東北地方環境事務所 所長 小林 香

新年明けましておめでとうございます。

昨年は夏が大変暑く、その影響が東北の農作物にも出るなど、地球温暖化の影響を現実のものとして感じざるを得ないようなことがありました。生物多様性については、以前は必ずしも認知度がそれほど高くないという残念な状況にありましたが、秋の名古屋での第 10 回生物多様性条約締約国会議 (COP10) の開催を契機にその認知度が高まり、東北でもいろいろな取組みが行われました。

また、昨年は磐梯朝日国立公園指定 60 周年に当たり、関係自治体等の協力のもといろいろな事業を行うことができました。

東北地方環境事務所は、東北の環境保全のため多様な主体との連携を大事にしたいと考えております。

今年は、六県は当然ながら、より多くの市町村との連携を図っていききたいと考えております。民間企業の皆さんとの連携も非常に大事だと考えております。東北においては、温暖化対策についてはまだまだいろいろな可能性があると考えておりますので、民間企業の皆さんと一緒に考え、私どもが果たすべき役割をしっかりと果たしていききたいと考えております。また、当事務所は民間活動支援のために EPO 東北を設置しておりますが、この EPO 東北と一体となって地域で活動している皆さんとのコミュニケーションを図り、活動を支援していききたいと考えております。

私はプライベートで週末に「奥の細道」を東京から歩いており、この 1 月にいよいよ東北・福島県入りする予定でおります。奥の細道を辿りながら、東北の環境を見て歩きたいと思っています。

この「みちのく環境だより」も発行 2 年目となります。この環境だよりだけでなく当事務所の業務についても、ご意見があれば遠慮無く寄せていただきたいと思います。

仙台の当事務所にも是非遠慮無くお立ち寄り下さい。

本年が皆様方にとって良い年になることを願っております。



環境省東北地方環境事務所

〒980-0014

仙台市青葉区本町 3-2-23
仙台第 2 合同庁舎

電話: 022 (722) 2870 (代表)

FAX : 022 (722) 2872

電子メール: REO-TOHOKU@env.go.jp

(リサイクル、有害廃棄物輸出入関係、地球温暖化対策、石綿健康被害等に関すること)

電子メール: TOHOKU@env.go.jp

(国立公園、エコツアーリズム、自然再生、野生生物、外来生物等に関すること)

地域の取組紹介

～秋田県における「こでんプロジェクト」の取組について
(秋田県)

最近の家電製品には、鉄や銅以外にもレアメタルが多く含有されています。レアメタルは日本の産業に重要であるほか、希少性や資源循環の観点から、こうした「都市鉱山」と呼ばれる使用済家電から回収し、資源として再利用することが重要とされています。

秋田県では、使用済小型家電に含まれるレアメタル等のリサイクルを推進するため、平成 18 年度に全国に先駆け、大館市において「こでんプロジェクト」による使用済小型家電の回収試験を開始しました。

この取組は、平成 20 年 12 月に環境省及び経済産業省のモデル事業として採択され、現在、県全域で、スーパー、家電販売店、公共施設に専用ボックスを設置し「ボックス回収」を行っているほか、地域イベントを利用した「イベント回収」、自治体の粗大ごみや不燃ごみから回収する「ピック

アップ回収」を展開しています。回収した使用済小型家電は、大館市の家電リサイクル工場にてデータ分析を行いリサイクル方法等を検討しています。



こでん回収モデル事業ポスター

秋田県では、使用済小型家電等のレアメタル等リサイクルについて「ふるさと秋田元気創造プラン」の重要施策の一つに位置付け、来年度以降も回収試験を行い産学官で事業化を探ることとしています。

また、昨年 9 月には、国が提案募集を行った「総合特区制度」に「レアメタル等リサイクル資源特区」を提案しています。

これは、県が認定した使用済家電が特区内のリサイクル事業者に無償で引き渡された時点で、廃棄物処理法の適用外とするなど、効果的に回収・保管を行うことにより、資源リサイクルを推進するものです。

秋田県資源エネルギー産業課では、「捨てる」と単なるごみだが集まれば資源となる。本県に全国から小型家電を運搬できるようにするためには、クリアすべき課題があるが、事業化できるよう産学官が連携した取組を進めたい。」と話しています。



設置された回収ボックス

使用済小型家電の回収実績

(単位: 個, kg)

期間	ボックス回収		イベント回収		ピックアップ回収		合計	
	個数	重量	個数	重量	個数	重量	個数	重量
平成 18 年度	2,275	769	—	—	1,458	5,275	3,733	6,044
平成 19 年度	5,291	2,696	—	—	4,342	14,769	9,633	17,465
平成 20 年度	33,535	7,503	551	241	6,217	12,878	40,303	20,622
平成 21 年度	41,017	9,607	2,093	490	13,858	18,317	56,968	28,414
合計	82,118	20,575	2,644	731	25,875	51,239	110,637	72,545

～シジュウカラガンの羽数 回復事業について (宮城県仙台市八木山動物公園)

シジュウカラガンってどんな鳥か知っていますか？名前の由来はほほの白い模様が小鳥の「シジュウカラ」に似ているからと言われているガンの仲間です。絶滅が心配される鳥です。

八木山動物公園では、そのシジュウカラガンの羽数回復に向けた取り組みを行っていますので紹介します。

シジュウカラガンはかつてアリューシャン列島で繁殖しアメリカ西海岸で冬を越すものと、千島列島で繁殖し日本で冬を越すものがいました。

しかし、20世紀初めの毛皮ブームでキツネの放し飼いが繁殖地始まり、捕食され、一時は絶滅したと思われていました。

しかし、アリューシャン列島で奇跡的に生き残っていた群れが見つかり、アメリカ政府の地道な研究や保護活動など30年を超える努力の結果、西海岸へ渡るシジュウカラガンは絶滅の危機を乗り越えたそうです。

日本でもアメリカと同じように羽数を回復できないかと、1980年から八木山動物公園と日本雁を保



ガン生態園のシジュウカラガン

護する会が共同し羽数回復計画を始めました。ガン生態園という繁殖施設を作りアメリカから親鳥を譲り受け飼育・展示が始まりました。その後1992年にカムチャツカ半島にロシア科学アカデミーの繁殖施設が完成し、アメリカと八木山動物公園から親鳥が運ばれ、1995年に千島列島のエルカマ島での放鳥が始まりました。1997年にはそのシジュウカラガンが日本に飛来し、初めて越冬が確認されました。越冬数は次第に増え、2009年には放鳥個体16羽を含む89羽が飛来しています。

自然繁殖での回復に目処が立ち、ロシアの繁殖施設が閉鎖されることになったことから、放鳥は2010年9月で終了しましたが、八木山動物公園は今後もシジュウカラガンの羽数回復に取り組むこととしています。



シジュウカラガンの親子

～自然エネルギーによるイルミネーション点灯式と次世代移動体システムの研究 (社団法人みやぎ工業会の取組)

12月18日(金)、太白小学校(仙台市太白区)で自然エネルギーによるイルミネーションの点灯式が行われました。これは、仙台市太白少年少女発明クラブ(以下「発明クラブ」という。)の会員の子供たちが、日頃の活動で学

んだ知識と技術をもとに製作した太陽光発電装置と風力発電装置が発電した電気を使って、12月26日(日)まで学校の校門に飾ったイルミネーションを灯すものです。



子供たちが製作した風力発電装置

点灯式には、発明クラブの子供たちと関係者ら約80人が集まり、午後4時55分、ミニ風力発電機30基とソーラー発電装置が発電した電気を蓄えた電池とイルミネーションのカウントダウンで点灯、赤色や青色等、14,000個以上のLEDが一斉に灯り、子供たちの嬉しそうな顔を照らし出し全参加者が感動した瞬間でした。

発明クラブは、太白区内のものづくり企業の経営者や技術者等が中心となり、平成16年12月に発足し、ものづくりと科学の面白さを体験しつつ「未来を拓く自然エネルギーの活用と技術」をテーマに掲げ、ものづくりの基本である半田付けやドリルなど様々な道具を使い手作りの工作を通して作品を作り、性能を測定し改良を重ねて創意工夫を育みつつ月2回の活動を行っています。

発明クラブを後援している(社)みやぎ工業会の理事で当クラブの工藤会長(工藤電機会長)は、「こうした活動を通じて、子供たちのものづくりに対する興味を育て、将来の人材育成の後押し

を行っていきたい」と話していました。



イルミネーション点灯

ところで、(社)みやぎ工業会の異業種企業で構成する「eータウンバス研究部会」は、このたび東北大学が2015年までに開発を進める次世代移動体システム研究の共同研究に参加することとなりました。

同研究部会は、かねてより東北大学工学研究科と次世代電気自動車の調査研究を重ねて、トラックやマイクロバス等の中型中古自動車の電動車両化に取組み、電動化ユニットや改造マニュアル等の開発等を行ってきました。こうした取組みを経て、東北大学の次世代電気自動車の試作等に地元企業が参加することとなりました。工藤会長は「低炭素社会の実現を目指した技術開発の大人チャレンジです。次世代の子供たちにも、ものづくりの芽と夢を育み受け継いでもらえる様に努力したい」と話していました。



「Eータウンバス」開発構想
(車両イラスト)

事業紹介

～アクティブレンジャー写真展(いわき市開催)報告 (福島県いわき市)

5月から各地のビジターセンター等で開催しているアクティブレンジャー写真展ですが、11月10日から12月9日までいわき芸術文化交流館内のアリオスカフェで開催しました。

これは、「みちのく環境だより」をご覧になったいわき市環境企画課の方よりご相談が有り、市のご協力のもと実現したものです。

開催のご要望があれば東北地方環境事務所野生生物課までご相談ください。



アリオスカフェ全景



展示風景

施設紹介

～十和田ビジターセンター



十和田ビジターセンターは、十和田湖の主要利用拠点である休屋(やすみや)に位置し、年間を通して4万人ほどが利用しています。当ビジターセンターでは、十和田八幡平国立公園十和田八甲田地域の自然や人文について地質模型、ハイビジョン映像、ジオラマ展示等により、分かりやすく解説しています。

また、環境省アクティブレンジャーによる最新の自然情報を提供している情報コーナーの設置や、職員による植物や昆虫などの触れる手作り標本といった、柔軟でぬくもりのある展示にも力を入れています。

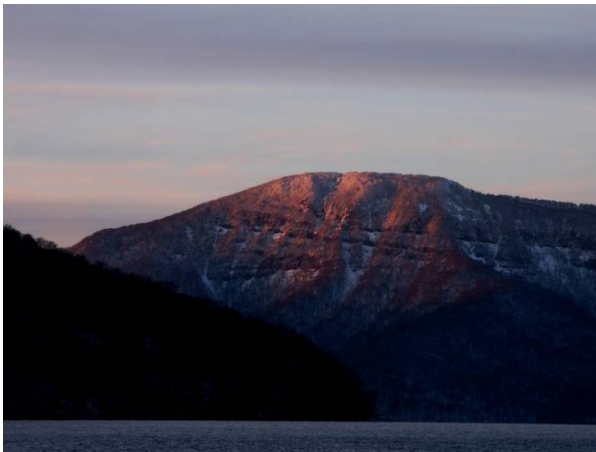
一方、自然ふれあいイベントは年間20回ほど実施しており、十和田湖だけでなく、奥入瀬・八甲田エリアの自然も楽しむことができます。また、春から秋にかけては地元のガイドクラブが毎日実施している「休屋早朝自然散策」の基点にもなっており、十和田湖の自然体験学習・情報交流の拠点としての役割も担っています。

東北地方環境事務所の業務予定(平成23年1月・2月)

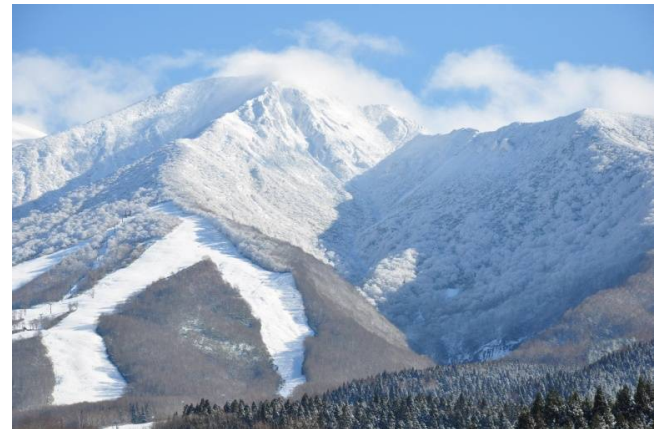
月日	時間	業務予定内容		場所等	担当課等
1.9	9:40～ 14:30	鞍掛山冬の自然観察会	スノーシューを履いて厳しい冬を乗り切るためにアカマツ林、カラマツ林、ミズナラ林で見られる動植物たちの生き延び戦略を観察。	相の沢登山口～鞍掛山山頂	盛岡自然保護官事務所(田村)
1.12	13:30～ 16:30	農薬適正使用指導者等研修会	住宅地等における農薬使用について、東北各県・市町村の関係部局、農業関係団体等担当者を対象とした研修会を開催する。	岩手県盛岡地区合同庁舎8階大会議室(盛岡市)	環境対策課(永井)
1.16	10:00～ 12:00	野鳥観察会(傷病鳥)	保護されている傷病鳥を観察し、野生で生き抜くための厳しさと生命力に触れ、その後、冬鳥の生息地を観察し野鳥保護の意識の高揚に努める。	秋田県鳥獣保護センター他	秋田自然保護官事務所(宮田)
1.18	13:00～ 17:00	家電・容器包装・食品リサイクル法の説明会等	家電リサイクル制度等に関する最近の状況、容器包装リサイクル法に係る環境省の取組及び食品リサイクル法の概要等についての説明会	仙台第二合同庁舎2階大会議室(仙台市)	廃棄物・リサイクル対策課(菅原)
1.20	9:30～ 11:30	第3回地域循環圏東北協議会	東北地域における地域循環圏の構築を推進するための協議会	仙台ガーデンパレス(仙台市)	廃棄物・リサイクル対策課(田村)
1.23	9:30～ 15:00	先祖伝来の道具作り	地元の講師の指導を受けながら忘れ去られようとしている道具作りを体験する。	網張ビジターセンター	盛岡自然保護官事務所(田村)
1.23	9:00～ 12:00	野鳥観察会(傷病鳥)	保護されている傷病鳥を観察し、野生で生き抜くための厳しさと生命力に触れ、その後、冬鳥の生息地を観察し野鳥保護の意識の高揚に努める。	大湯草原鳥獣保護区他	秋田自然保護官事務所(宮田)
1.23	9:30～ 15:00	歩くスキーを楽しもう!初級編	奥入瀬溪流の支流である黄瀬川の林道をスキーでアニマルトレッキング。初心者の方の歩くスキー体験に適したコースです。	奥入瀬溪流館	十和田自然保護官事務所(舟橋)
1.28	14:00～ 16:30	グリーン電力証書に関する説明会	グリーン電力証書についてその概要、認証手続、活用事例等の説明、質疑応答を行います。	仙台市市民会館(仙台市)	環境対策課(向田)
1.31	16:00～ 18:30 (予定)	東北地域のウォームビズ(未定)	ウォームビズ関連商品の展示及び古民家住宅の高断熱化の講演等を行い、東北地域のウォームビズに係る普及啓発を行う。	仙台メディアテーク(仙台市)	環境対策課(向田)
2.3	9:30～ 15:00	雪と氷の世界へスノーシューウォーク第1弾 ※小畳石	十和田湖は「雪と氷の博物館」と言われています。子の口～小畳石(往復)をスノーシューで歩き、クリスタルな「しづき氷」と野鳥、動物の足跡などを観察します。	子の駐車場	十和田自然保護官事務所(舟橋)
2.9	13:00～ 17:00	南東北地区不法投棄対策地方セミナー	不法投棄対策担当者の現場対応ノウハウの蓄積及び現場対応の能力の向上を図るためのセミナー	郡山市ビックアイ「市民交流プラザ」大会議室	廃棄物・リサイクル対策課(前田)
2.11	10:00～ 14:30	自然観察会	スノーシューを履いて鎌倉森中腹のブナ林まで登り、ブナ林の様子や動植物たちを観察	網張の森(網張ビジターセンター)	盛岡自然保護官事務所(田村)
2.12～ 2.13	10:00～ 13:00～ 各1時間	自然観察会	スノーシューを履いて動植物たちの生き延び戦略を観察	網張の森(網張ビジターセンター)	盛岡自然保護官事務所(田村)
2.12	13:00～ 16:00	ESDセミナー「持続可能な地域づくりセミナーin東北・福島」	ESD(持続可能な発展のための教育)を広く周知するために、具体的な取組事例の報告と、パネルディスカッションを実施。	西会津町・道の駅にしあいづ(福島県西会津町)	環境対策課(白迫)

月日	時間	業務予定内容		場所等	担当課等
2.13	9:20～ 12:30	自然観察会	裏磐梯地区のレンゲ沼・中瀬沼周辺において、雪原をスノーシューなどで歩く自然観察会	裏磐梯サイトステーション(福島県北塩原村)	裏磐梯自然保護官事務所 (福地)
2.19	9:40～ 14:30	自然観察会	スノーシューを履いてアカマツ林等で見られる動植物たちの観察。山頂からは冬の山岳風景を展望する。	相の沢登山口～鞍掛山山頂(相の沢登山口:駐車場)	盛岡自然保護官事務所 (田村)
2.21	9:30～ 14:00	スノーシューウォーク第2弾 ※十和田湖西岸	十和田湖西岸の銀山から鉛山まで歩き、雪の造形や動物の足跡などを観察します。	十和田ビジターセンター	十和田自然保護官事務所 (舟橋)
2.26	9:40～ 14:30	自然観察会	岩手山麓の広大な牧場の中をスノーシューを履いて探勝する。展望台からは岩手山ほか四周の山々等の広大な風景を觀賞、観察する	相の沢登山口～春子谷地展望台(相の沢登山口:駐車場)	盛岡自然保護官事務所 (田村)
2.27	10:00～ 14:30	自然観察会	スノーシューを履いて冬の動植物たちを観察	乳頭温泉、空吹湿原周辺	鹿角自然保護官事務所 (井手)

誌上写真展



御鼻部山南壁
(十和田自然保護官事務所
アクティブレジャー 嶋村 道)



冬姿の秋田駒ヶ岳男岳
(鹿角自然保護官事務所
アクティブレジャー 大堀 拓)



樹影
(十和田自然保護官事務所
アクティブレジャー 種村 由貴)



初冬(八甲田)
(十和田自然保護官事務所
アクティブレジャー 嶋村 道)



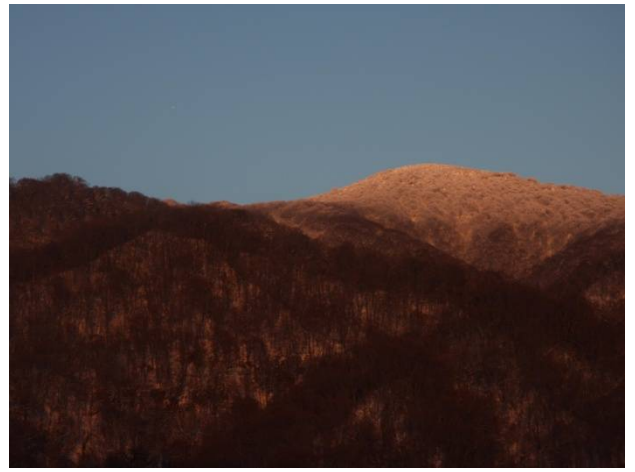
スズガモの伸び伸び(蒲生干潟)
(仙台自然保護官事務所
アクティブレングジャー 鎌田 和子)



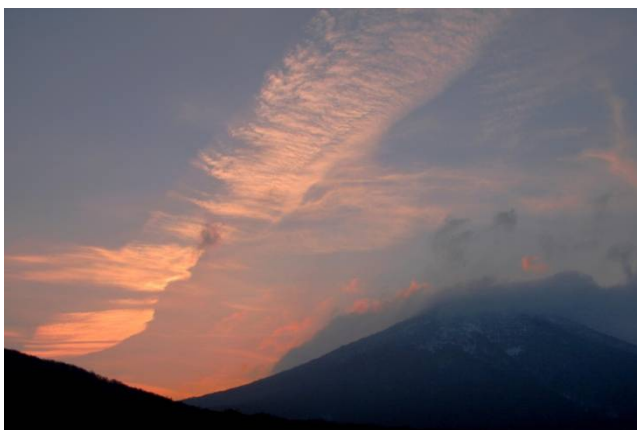
うーんん
(十和田自然保護官事務所
アクティブレングジャー 種村 由貴)



地獄沼
(十和田自然保護官事務所
アクティブレングジャー 嶋村 道)



十和田山
(十和田自然保護官事務所
アクティブレングジャー 嶋村 道)



雑岳の夕焼け
(十和田自然保護官事務所
アクティブレングジャー 嶋村 道)



ブルーモーメント(燕栗沼)
(仙台自然保護官事務所
アクティブレングジャー 鎌田 和子)

題字横の写真：日の出(伊豆沼)

※当事務所以外の方からの投稿もお待ちしております。

(仙台自然保護官事務所アクティブレングジャー 鎌田 和子)